

明石市

無戸籍者支援強化

きょうから 調整員や全妊婦面接

明石市は無戸籍者総合支援の新たな取り組みを4月1日から始める。支援コーディネーター設置▽サポートナンバーカード交付▽妊婦全数面接実施の3施策。泉房穂市長は会見で「無戸籍は本人や親の責任ではなく社会の責任であり、市が向き合うべき問題だ。」

市内の無戸籍者を11人把握し、うち3人が現在も無戸籍状態であることを明らかにしたうえで、早期支援の体制整備など具体策を提案。これを受けて市が支援策を発表した。

市は庁内で中堅・若手職員からなるチーム「総合支援タスクフォース」をつくり、支援策などを検討してきた。タスクフォースは3月30日、泉房穂市長に最終報告書を提出。

調整員や全妊婦面接の整理▽法的手続きへの支援▽行政サービス紹介など一を行い、無戸籍状態に至る背景事情の解決も含めて取り組む。タスクフォースで中心的役割を担った職員を配置する。

サポートナンバーカードはマイナンバーを取得できない無戸籍者へのサポートとして希望者に交付。市とのつながりを形にして社会的な孤立感を緩和するとともに、カードを市役所窓口で掲示することによって事情を説明する手間を省く。

妊婦全数面接は早期把握のため母子健康手帳交付時に行う。4月から保健センターでモデル実施し、2017年1月からは駅前再開発ビル6階に設置する窓口で全ての妊婦を対象に本格実施する。

無戸籍者支援のサポートナンバーカードを説明する泉房穂市長—明石市役所で



庁内チームの提案受け

【駒崎秀樹】